

カウントダウン その4

さあ、4カウントです。後期選抜合格発表。並びに福島県教職員人事異動発表です。

先日、恩師である吉田信雄先生が校長室に来られ、著書を置かれていきました。

「思郷」吉田信雄

四世代で暮らした平穏な日々が、原発禍によって、一瞬にして打ち砕かれる。ゆえなく故郷を逐われた者は、ただただ故郷への思いをつのらせるほかなかった――。

為政者よ、電力会社よ、聞け、この声を。その何首かを諳んじて、人に伝えよ。

震災前は大家族でした いまさらに言へど詮無し二人となりぬ

頭から靴の先まで覆はれて愈【いか】りはめぐる防護服のなか

泡立草は丈高く生ふ原発の地を常闇【とこやみ】に閉ざさむとして

大熊町から、毎日、常磐線で通勤なさっており、茶色い鞆をもって私たちを追い抜いていくような健脚ぶりでした。今はいわき市泉町のほうにご自宅を建てられて住まわれています。時折、同級生たちが行うゴルフにも出ていらしています。

震災時には、大熊町から会津のほうに居所を移動され、お年を召されたお父様とお母様のお世話をしながら、過ごされているのをテレビの向こうに懐かしく、そして、その被災状況が何ともおいたわしく、感じていたのを思い出します。

先生の大熊のご自宅は、帰還困難地域で、今や、その場所は中間貯蔵施設になっているというお話でした。今回の野球部のこともきっと喜んでいてくれたと思います。そして、残念だとお思いだとも思います。

ヤマケン先生や大田和先生が生きておられたら、やはり、喜んでいただいたでしょうし、残念だと同情もしてくれたでしょう。

吉田信雄先生も教え子が校長になったと喜んでいただきました。吉田信雄先生は、私の吉信といわれていたのを思い出します。

吉田先生は、双葉高校の英語教諭を退職後、「青白き光」で知られる故・佐藤祐禎さんの勧めで短歌を始め、佐藤さんの指導を受けながら創作に取り組んできたと聞いております。